

いっしょに困ってもいい、怒ってもいい

そして、いっしょに笑ってほしい

本人らしい意思決定につなぐ地域づくりの第一歩

「フォロワー」という つながりを始めませんか？



本当の思い
伝えられている？



意思決定
フォロワーって
なにをする人？



SDM-Japan
Japan Network of Supported Decision Making

一般社団法人
日本意思決定支援ネットワーク

Supported by

**日本財団**
THE NIPPON
FOUNDATION

本当の思い、伝えられている？ 受け止められている？

本人の思いと、支援する人たちがこうだろうと思うこと。
すれ違っていることが結構あります！

施設ではとてももの静かな人と思われていたEさんでしたが…

施設で車いす生活を送っているEさんは、一日の多くをテレビを見て過ごし、外を歩く人を窓から興味深く見ていることもありました。

特に希望や要望を言うこともなかったのですが、施設の人は、Eさんは困っていることもなく暮らしているものと思っていました。

そんなEさんに意思決定フォロワーがつくと…

フォロワーがいろいろな話を聞いていくうちに、Eさんは、実はお団子が大好きなのに、以前職員さんから「買い物はできない」と言われたことがあったために、自由になるお金が無いと思って、お団子を「買いたい」「食べたい」と言ってはいけないと我慢していたことがわかってきました。

「それでもお団子が食べたい」と話してくれるようになったEさんに、ある日、フォロワーが、「職員さんに聞いてみようか？いっしょに話す？」と背中を押してみました。

するとEさんは、自分から「お団子が食べたい」と職員さんに伝えることができ、施設の職員さんも理解して、お正月など特別な日には、お団子を食べられるようになりました。

また、Eさんは子どもの頃によく見に行ったお祭りも大好きでしたが、「職員さんは忙しいから連れて行ってもらうのは難しい」と気遣って黙っていたこともわかってきました。

「お祭りに行きたいんですね。どうしたらいい？」とフォロワーが尋ねたところ、「**今年は見たい**」とEさんの本音が聞けました。それではどうするか、フォロワー同席の下、Eさんが職員に思いを伝えたことをきっかけに、関係者みんなと一緒に相談することになりました。



意思決定フォロワーがついたEさんは、
どうして自分の思いを言えるようになったのでしょうか？

意思決定フォロワーって何？ 私たちが考えているひとつの形をご説明します！

皆さんの地域に役立つヒントを見つけてください！

フォロワーは支援者の代わりに何かをする人？ 答えは、NO！…… P.03
フォロワーの役割についてお話しします

フォロワーは他の支援者と何が違うの？ …………… P.04
支援者と支持者の立ち位置の違いについてお話しします

フォロワーはどんなところで活動するの？ …………… P.05
フォロワーの導入検討事例をお話しします

フォロワーが入ると何が変わるの？ …………… P.06
フォロワーシステムが目指す世界観をお話しします

フォロワーを始めるにはどうすればいいの？ …………… P.07
導入研修から活動開始までの流れをお話しします

でも、人と人、相性が大事なのは？ …………… P.08
本人とフォロワーとのマッチングとその後の活動についてお話しします

フォロワーは一人で頑張らなければいけないの？ …………… P.09
本人・フォロワーを支える体制づくり(フォロワーシステム)についてお話しします

フォロワーシステムを体験してみてどうでしたか？ …………… P.10
(本人・フォロワーの皆さん)

フォロワーシステムを体験してみてどうでしたか？ …………… P.11
(フォロワーを支える皆さん)

このフォロワーシステム事業の強みは？ …………… P.12
この事業に関わる皆さんからお話しいただきました

私たちと一緒に取り組んでみませんか？ …………… P.13
連絡先と事業開始までのステップ等をお伝えします

フォロワーは支援者の代わりに何かをする人？ 答えは、NO！

何に困っているのか決めるのは本人。
何を望むのか、何を困っているのか、何に怒っているのか。
本人と同じ生活者の目線や気持ちで考え、
本人が伝えにくいところを補いながら
本人が周りにいる人たちと話すのを後押しするだけ。

フォロワーの行動指針

(豊田市での意思決定支援モデルプロジェクトにおける意思決定フォロワーの活動の際の心がけから引用)

- | |
|------------------------------------|
| ①本人の wish(希望・願い)やコミュニケーションを広げる・深める |
| ②本人が wish や主張を言う・主張するのを手伝う |
| ③本人の wish や主張をマイクやスピーカーとして伝える |
| ④本人の wish・主張や困りごとを、事務局や専門員に相談する |

※マイク・スピーカーの原則

言い換えたりしない、そのまま言う／小さな声を大きくする／言う・言わないのスイッチは、本人がもつ

フォロワーの活動で心がけること

豊田市での意思決定支援モデルプロジェクトにおける
意思決定フォロワーの活動の際の心がけから引用
.....

- 本人のお金を直接取り扱わない
- 本人のために良かれと思って口出ししない
- 本人のお話を途中でさえぎらない
- 本人の好き嫌い・信条・価値観・希望を踏まえて選択肢を提案する
- 言葉以外のコミュニケーションにも着目する
- 本人が自らの希望を他の人に伝えられる方法を一緒に考える
- 支援者等とは本人がいないところでは話を進めない



本人といっしょに意思決定支援の ボタン(きっかけ)を押していく

人は、話せることしか話さないし、話したいことしか話せません。「聞き出す、真実を突き止める」という姿勢ではなく、話せる(伝えられる)、話したくなる(伝えたい)環境と関係性をいかにつくれるか。のんびりとした間の抜けた話に思えるかもしれませんが、話す側(伝える側)の視点で見たら、**その間こそが大切です**。さまざまな事柄について自己選択を積み重ねることによって、支援を受けながらも自分自身の人生に主導権を持って生きる、その時にいつもそばにいるのがフォロワーです。



フォロワーは他の支援者と何が違うの？

一般的な支援者とフォロワー(支持者)の立ち位置の違い

	支援者	フォロワー(支持者)
役割	本人の生活の基盤を支えるための 何らかの権限・義務がある (金銭管理や契約の代理権等を有する場合もある)	本人の選好や価値観を支持し、本人が生活で望むことを応援・後押しする
金銭管理	代理権に基づいて、本人の財産から生活に必要な金銭を入出金することがある (事実上、管理している場合を含む)	お金の使い道を一緒に考えたり悩んだり、付き添ったりする(お金を預ることはない)
行動	意思決定支援を踏まえた行動が求められるものの、良かれと思って、本人の希望よりも最善の利益を優先することもある	緩やかなアドボケイトとして本人の側に立ち、本人の心からの希望・本当の思いを探求、支持する
目的	本人の保護 ニーズに対する解決	自己選択(チョイス)と主導権(コントロール)の保障 ※解決よりもプロセスが大切
リスクの捉え方	本人の安全、周囲の安心を重視	本人がリスクを負うことの尊厳も重視

※支援者と支持者とは、反目し合うのではなく、例えば豊田市では、

【十人十色】本人にとっての彩(いろどり)ある暮らしを一緒に描きます。

【尊厳】周りの価値観ではなく、本人の価値観を基準に考えます。

【共働】お互いの立場を尊重しながら、それぞれの役割を全うします。

の共通理念をもって、それぞれ動くこととしています。

周りや社会の価値観ではなく、本人の価値観を基準に考える

時に、自分にとって重要なことが、他の人にとっては重要でないことがあります。また、その逆もあります。

フォロワーは自分の視点ではなく、本人の視点に立って、友達のように接しながら本人といっしょに悩んだり、困ったり、考えたりしていきます。

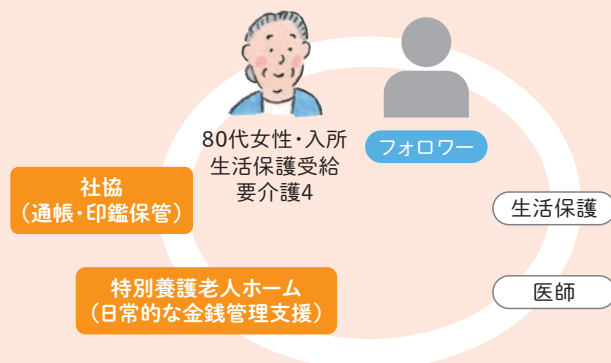
フォロワー = 友達 + マイク&スピーカー



フォロワーはどんなところで活動するの？

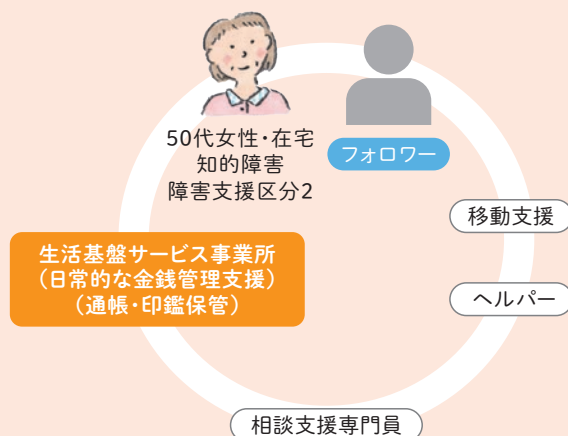
身寄りのない80歳代女性の入所調整ケース(生活保護受給、要介護4)

- 2人暮らしをしていた夫が急死。身寄りがなく、本人も衰弱していたため、ショートステイで安定を図ることに。本人と事業者に、生活保護ケースワーカー及び福祉総合相談課からの説明を踏まえ、本人と事業者が介護保険サービス契約を結ぶ。
- 金銭管理、通院支援、死後の対応について、関係者でケース検討。
- 本人が意思決定するために相談できる相手がおらず、金銭管理の課題もあることから、相談課がフォロワーの関与を提案したところ、本人もそれを希望。高齢者等終身サポート事業者による支援に併せて、本人の支援付き意思決定を確保するための体制を整備。



施設を退所し、一人暮らしへの移行後も障害サービス事業者が金銭管理支援に関わる知的障害のある女性のケース(障害支援区分2)

- 施設での生活が長かったため、一人暮らしを始めてどのような生活を送りたいのかを考えたり決めたりすることに不安があった。
- 買い物や通院の際に、周囲の人とのコミュニケーションがうまく取れず、本人の気持ちも落ち込んでいる様子だったことから、フォロワーが関わり、コミュニケーションしやすい環境を整えることとなった。
- 現金は、元々利用していた施設の世話人から支援を受けて、本人が管理。
- 通帳・印鑑は生活基盤サービス事業を行う法人で預かり。



認知症の父親と同居している知的障害・身体障害のある40歳代男性の希望に基づく生活+父親亡き後への準備を考えたケース(障害支援区分3)

- 本人と父親ともに同じ弁護士が成年後見人として選任。日常の金銭管理が中心。
- 本人と父親は年に1回旅行に行くなど意思決定支援の更なる充実の余地があることから、本人の選択や希望に丁寧に寄り添うことができれば、さらに生活が充実できるのではないかと成年後見人からフォロワー利用の相談があった。
- 一方で、父親の体調が悪くなってきたことから、支援体制の変化が想定されることもあり、フォロワー利用のタイミングを調整。



フォロワーが入ると何が変わるの？

本人が積極的に社会参加しながら、目指す未来に向けて歩み始められます！

○意思決定支援の充実に向けた「牽引役」になります

本人がフォロワーを信頼して、希望や選好、嫌だと感じたことなどをフォロワーや周囲の人に言えるようになります。

○本人の周囲の人たちへの「牽制役」になります

本人がフォロワーとともに自分の声を事業者に届けられるようになり、事業者や周囲の人が本人の希望やフォロワーの気づきを踏まえて必要な支援を提供するようになります。

○本人の思いを受け止められる環境が整います

本人が発信した声を、事業者や周囲の人が受け止め、理解できるようになります。

○本人の思いをしっかり応援できます

本人が自分の思いに沿った未来についてフォロワーと話し合い、周囲の人に協力を求められるようになり、周囲の人は、本人の思いに沿った未来に向けて、それぞれの役割に応じた支援を行えるようになります。



フォロワーが入ることによって、支援者側にも変化が！

これまで本人の訴えに対して回答を曖昧にしてでも安心感を提供することを優先し、その場をやり過ごすようなことがケアの手法としてあったように思います。これは本人の意思表示に対してきちんと向き合っていなかったと反省せずにはいられません。

身寄りのない方にとって、施設職員が身近な専門家であるように、**フォロワーさんは身近な友人のような存在なのでしょう。毎回、フォロワーさんの気付きには感服させられます。ソーシャルチェンジでしょうか、私も含め本人の思いに対する職員の感度が上がったように思います。**

(生活基盤サービス事業者)

フォロワーは月2回程度、本人への定期訪問をしますが、本人の同意や意思があれば、一緒に外出したり、買い物したりすることもできます。地元で開催されるお祭りに一緒に参加したり、一緒にコンビニに行って店員さんとスムーズなやり取りができたという動的で親密な関係づくりが増えています。



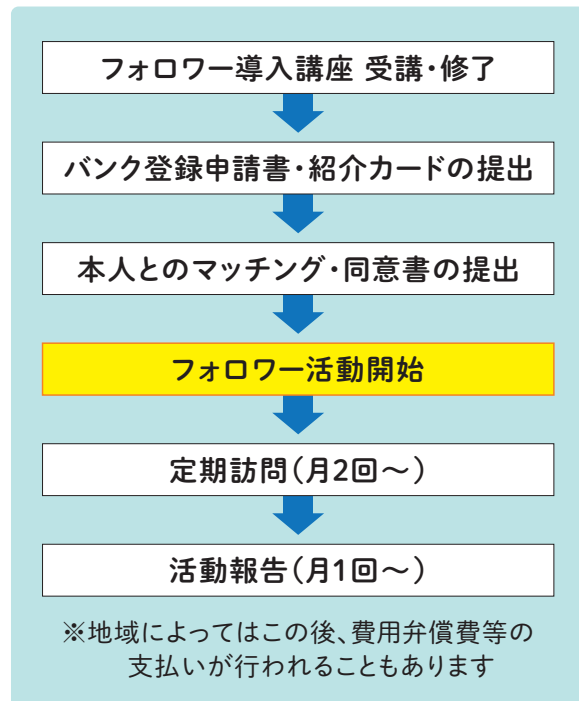
フォロワーを始めるにはどうすればいいの？

フォロワーは同じ生活者として本人とお付き合いする役割。
でも、意思決定支援の基本的な姿勢は必要です！

フォロワーとして活動していく流れ

フォロワーとしてどのように本人と向き合うのか、その姿勢や考え方、コミュニケーション手法などの基本を研修で学んだ方が、フォロワー登録した後、利用希望者とのマッチングを経て、活動が始まります。

活動開始後は、定期訪問・活動報告をはじめ、同じ地域に暮らす市民として、本人との絆を深めていく行動が期待されます。



フォロワー導入講座

まず、フォロワーとして活動するための、意思決定支援の基礎を学ぶ講座を開催しましょう。皆さんの地域の規模や権利擁護支援の取組状況に応じて打ち合わせしながら内容をアレンジして提供します。

受講者には受講後に修了証が渡され、その後、フォロワー利用希望者とのマッチングを経て、実際の活動が始まります。

豊田市のモデル事業で実施したプログラム

本日のプログラム			
開始時間	テーマ	概要	講師
10:00	挨拶、オリエンテーション		豊田市
10:15	演習1：決められた体験	ロールプレイを通じて、他人から一方的に決められてしまうことの体験を行い、その感想を共有します。	大庭英樹氏 (あいあつく代表) 水島俊彦氏 (SJM-Japan副代表)
10:40	休憩		
10:50	講義1：障がいの理解、すべての人がいやすく、生きていくためには医学モデルから社会モデルへ	社会モデルという考えから障がいを理解し、これまでと違った見方から、社会や関係性を捉え直す導入とします。	木本光宣氏 (ユートピア若宮理事長)
12:40	昼休み		
13:40	演習2：あなたについて一緒に考える	研修パートナーをお招きして、研修パートナーと一緒に好きなことや将来の夢などを書き出す作業を通じて、相手の意思や希望を尊重しながら活動することを学びます。	研修パートナー 名川勝氏 (SJM-Japan代表理事) 水島俊彦氏
15:40	休憩		
15:50	演習3：振り返り	これまでの講義や演習の振り返りを行い、学んだことの共有を行います。	名川勝氏 水島俊彦氏
16:45	講義2：とよた意思決定フォロワーの活動について	豊田市のモデル事業の紹介をするとともに、とよた意思決定フォロワーとして活動するための流れを紹介いたします。	豊田市
17:00	終了		



本人とフォロワーのお付き合いのスタートライン。
マッチングはもっとも重要なステップです！

フォロワーは一人で頑張らなければいけないの？

フォロワーの姿勢を維持するには武器と防具が必要です！

私たちが必要と考える本人とフォロワーのサポート体制(赤・青・緑の相互牽制機能)

- 本人、フォロワー(青)をサポートする役割として、事務局・合議体・専門員で構成される権利擁護支援委員会(緑)を設けます。
- 本人の意思決定支援をより充実させる、及び事業者(赤)による関係性の濫用を抑止するため、必要に応じて権限を持たないフォロワーに代わって委員会が介入します。(本人・フォロワーの武器)
- また、事業者(赤)による、本人の意思決定に対する不当な影響力の行使がなされないよう、フォロワー活動を通じて、日常的な場面から支援者の行動を牽制します。(本人・フォロワーの防具)

※こうした機能をそれぞれの地域の実情や赤の影響力に合わせて組み入れていきましょう。



障害者権利条約の理念を踏まえ、意思決定における本人の自律性と主導権を保障するために

フォロワーが本人の選好や価値観に寄り添い、アドボケイトや委員会が独立した立場で見守る仕組みを整え、本人に対する影響力の強い主体による不当な影響や関係性の濫用を防ぐ「相互牽制機能」を備えた持続可能な権利擁護支援の仕組みの構築が求められます。

権利擁護支援委員会

- ①事務局(実施主体：自治体、社会福祉法人など)
 - フォロワーや事業者(赤)からの相談・月次報告の対応
- ②合議体(障害当事者、市民、高齢福祉／障害福祉事業者、実施主体、司法専門職、福祉専門職など)
 - 定例会議(フォロワー活動と支援検討、権利擁護支援専門員による報告など)
 - 本人にとって重要な意思決定・契約等を行う際の対応の助言
- ③権利擁護支援専門員(当事者団体構成員、司法専門職、福祉専門職など)
 - 金銭管理監督担当：四半期ごとの金銭管理の状況確認
 - アドボケイト担当：フォロワーとの面談サポート、委員会からの派遣要請による独立調査・代弁活動

フォロワーシステムを体験してみようでしたか？

(本人・フォロワーの皆さん)

知的障害のある古川さんとフォロワーの倉田さん

古川さん：以前は買い物する時も、診察を受けるにも、施設からの引越しを考えた時も、「どうしよう、やっていいのかな、やっちゃいけないのかな」って迷っていました。そんな時に倉田さんは、「古川さんならできるよ、やってみない？」「施設の職員さんに相談してみたら？」って言うてくれて、できるようになりました。職員さんも、「何でも自分で言えるようになったね」って喜んでくれて、「こうしたらいいよ」ってアドバイスももらいました。倉田さんのおかげで、言わなければいけないことは言わないといけないと思えるようになりました。



いっしょに買い物を楽しむ古川さんと倉田さん

倉田さん：訪問して何回も何回もお話をさせていただいて、古川さんの話をよく聞いていくうちに、古川さんがどう思われているかということがだんだんわかってきました。そこで、「やはりこれは古川さん自身の言葉で言わないとわからないこともたくさんあるので、お話しをされたらどうですか？」ということをお伝えしたところ、私と一緒に施設の人とお話をしたり、外出したりしながら、自分の言葉でいろいろ発信したりできるようになりました。今後、古川さんとはフォロワーとしての関係だけではなく、いろいろな形で施設にもお世話になりながら、自分にできることを進めていけたらなって思います。

認知症のチエさんとフォロワーの小川さん

チエさん：あちこち行けたらいいなという話をしています。一緒にいろんなところに行ってみたいです。もっとたくさん来てもらって、もっと話をしたいです。

小川さん：チエさんとお会いしてまだ3回目です。最初は緊張もしましたし、好きになってもらえるか不安でしたが、少しずつ笑顔を見せてくれるようになり、緊張だけではない時間になってきています。今日も「また来てね」と言うてくれて、嬉しかったです。これから普通の話がたくさんしたいですね。いろいろなところに出かけられたらいいと思います。

プライベートな話にこちらからずけずけと入っていくのは良くないと思いますが、チエさんから話してくれるようになるといいですね。いずれなんとなくでも小さな希望みたいなものが吸収できて、それをチエさんから発信してもらえるように自分がお手伝いできるのであれば、力になりたいと思っています。



少しずつ会話が進むようになったチエさんと小川さん

インタビューの全容を動画で視聴できます

<https://sdm-japan.net/what-we-do/follower-system/follower-system-video>



フォロワーシステムを体験してみてもうでしたか？

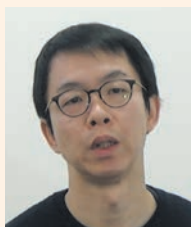
(フォロワーを支える皆さん)

木本光宣さん：委員会合議体委員及び権利擁護支援専門員（アドボケイト担当） 特定非営利活動法人 ユートピア若宮理事長



先天性の脳性マヒのある障害当事者として日々起こる権利侵害の経験を生かしてアドボケイト活動をやればいいのかと、権利擁護支援専門員をやらせてもらいました。瞬間的に、差別されているとか、権利を奪われているというところを、嗅覚で判断できる、空気を読まずに言えるというのが、私たちが委員会に入る大事な意義だと思います。フォロワーさんがひょっとしていいと思ってやっていることも、「それ、違うよ」と言える場合もあります。フォロワーさんにとっていいサポートができると思います。

長澤幸祐さん：委員会合議体委員及び権利擁護支援専門員（金銭管理監督・アドボケイト担当） 愛知県弁護士会／長澤幸祐法律事務所 弁護士



成年後見だと、どうしても正解を求めがちになってしまう。身の安全や財産の安全を考えると間違っているわけではないけれども、それが本人の意思を尊重しているのかというと、疑問に思うことも結構あります。この制度は、どの事案もとても悩むと思うんです。みんなで悩んで、それぞれのいろいろな経験や知識、立場からいろいろな意見を出し合う。本人のためにみんなで考えるということができれば、本人がより生きやすい仕組みが出来上がっていくと思います。

阪田征彦さん：委員会合議体委員及び事業者（障害福祉） 障がい者支援施設むもん 施設長



権利擁護支援委員会（緑）の役割は、仕組みのキーパーソンだと思います。本人の「やれる」「やれない」というところにフォーカスしてしまうと、多分何もできません。何のためにこれをやるのか、本人が本人らしく生きるためにしたいならやるべきではないのか、そのために終結のあり方をどう捉えるか、というようなところを戻し戻しやっていく議論がとても大事だと思います。強いアドボケイト機能を発揮するには、委員会のような立ち位置がないと難しいのではないのでしょうか。時間はかかりますけどね。

三井克哉さん：委員会合議体委員及び事業者（高齢福祉） 社会福祉法人旭会 特別養護老人ホームくらがいがけ 施設長



フォロワーさんは、必要か不要かという情報の仕分けをしない、本人が話したくなるというような存在。対して赤の事業所は、本人の様々な背景が前提条件にあるために、本人の意思を尊重していないことに気づきにくいんです。しかし、フォロワーさんから報告を聴く緑の委員会はそれに気づくことができます。なので、赤の事業所に対して、緑の委員会が教えてあげる関係ができるといいですね。気づきを得られると、本当の利用者本位を考え直せるきっかけになりますから、サービスの向上につながります。

インタビューの全容を動画で視聴できます

<https://sdm-japan.net/what-we-do/follower-system/follower-system-video>



このフォロワーシステム事業の強みは？

永田佑さん：同志社大学社会学部教授



市民後見人さんは、権限があるがゆえにいろいろ決めなくてはならない。悩むことも多いと思います。フォロワーさんは権限は持たないので、本人に思いだけを聞く。そこにやりがいとか面白さがあるのではないのでしょうか。

市民が参加することで、専門職にはない視点、関わり方ができるというだけではなく、本人もフォロワーさんも新しい価値観や視点を身につけられる。その先には、施設の人達が変わり、地域社会が変わっていくところまで見通せる。地域福祉のゴールを達成していく可能性のある事業だと思います。

安藤亨さん：豊田市 福祉部 よりそい支援課 地域共生・社会参加担当長



フォロワーとして市民の方が関わるからこそ、行政がイメージできる範疇ではなく、フォロワーとして実際に必要だと思ったことをまず活動してもらうことが重要です。

そのため、その活動を受け止め、認めることや、受け止めた後も地域みんなで考えられるように、豊田市では進めてきました。いろいろな人たちの目線や声があると、フォロワーも助けられますし、結果として私たち行政も助けられます。フォロワーだけではなく、地域福祉や権利擁護に関わるいろいろな人たちが役割を分担し、共有できる形をつくることが重要だと考えています。

大地裕介さん：豊田市社会福祉協議会くらし応援副課長／豊田市成年後見センター長



専門職に関わることも大事ですが、やはり市民によるぬくもり、温かみが、地域を良くすると思っていますので、フォロワーさんがそっと横について、後押しをしてくれるこの事業は本当に素晴らしいと感じています。フォロワーさんが入って彩りある暮らしになって楽しいという本人の声、枠にとらわれない気づきや学びがあって楽しいというフォロワーさんの声、いろいろな気づきがあって良かったという事業所の職員の声が聞こえてきます。関わる人たちがみんな楽しくなるこのシステムは、やりがいがあるなと感じています。

大瀧英樹さん：心の病、生きづらさを抱えた人々の活動団体 あいあらく代表



生きづらさを抱えている方というのは孤立傾向というか、周囲の対応で自ら自分の殻に閉じこもっていることがあるので、趣味嗜好を聞いてくれたり、どうしたいのかに寄り添ってくれたりするフォロワーさんは、とても重要なポジションだと思います。本人の思いは、どうでもいい会話の中からポンと出てきたりします。大事なのは、その言葉に気づけるかどうか。気づけば、そこからまた話が展開します。個人では壁を感じても、行政の事業なので展開が期待できる。さらに独立アドボケイトがつくことで、より本人に焦点をあてられる。このシステムは利用者の大きなメリットになると思います。



私たちと一緒に取り組んでみませんか？

私たちSDM-Japanが、皆さんの地域への
フォロワーシステム導入をサポートします！

連絡手段・連絡先

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系障害科学域 名川勝研究室 気付
一般社団法人 日本意思決定支援ネットワーク(SDM-Japan)
E-mail: info@sdm-japan.net URL: <https://sdm-japan.net/contact>



事業実施までのステップ

1. 定期的に実施する学習会等にご参加いただくことにより、フォロワーシステムの仕組みや魅力について学びます。
2. 個別面談等の機会を通じて、フォロワーシステムを活用して取り組みたいと考えているテーマ等をお伺いします。
3. 事業規模、予算等について具体的に協議の上、必要に応じて、国・自治体による補助、日本財団を含む民間団体助成等の可能性を模索します(助成金等が得られることを確約するものではありません)。
4. 当該地域を担当するSDM-Japanメンバーと共に、事業を実施します。SDM-Japanは主として、フォロワーシステムの実施のために必要な体制構築に係るコンサルテーション並びに各種研修講師派遣、本人・フォロワー支援に係るアドボケイト派遣及び事業評価に係る独立調査員の派遣等を行います。

SDM-Japanができること

■ 各種研修講師派遣

- ① フォロワー(青)養成に係る研修を、障害当事者と専門職の共同チームで担当します。
- ② 事業者(赤)、委員会(緑)向け研修として、意思決定支援の基本から始まり、各種意思決定支援に関するガイドラインのポイント解説、意思決定支援に関する専門スキルを学ぶことのできる研修(P.14 参照)まで、実施主体の皆さまのご要望に合わせて調整し、適切な講師を派遣します。

■ 本人、フォロワー支援に係るアドボケイト派遣

緩やかなアドボケイトであるフォロワーは「これでフォロワーとしていいのかな」「本人から／事業者から〇〇と言われた。どうしよう」といった悩みが生じることもあります。そこで、SDM-Japan所定の研修カリキュラムを終え、SDM-Japanが認定した独立アドボケイト(フォロワー支援専門員等)が、伴走者として一定期間フォロワーとの個別面談(対面／オンライン)を実施したり、フォロワー同士が集う場においてフォローアップを担当したりすることが可能です。また、独立した立場から、委員会からの派遣要請に基づき、本人の意思、選好及び価値観の調査及び代弁活動を行うことも可能です。

■ 事業評価に係る独立調査者派遣

SDM-Japanが豊田市、日本財団の三者協働で構築した評価スキームを基に、独立した調査者を現地に派遣し、フォロワーシステムが適切に機能しているかどうかを調査、報告することが可能です。

私たち SDM-Japan が目指す社会

私たち、日本意思決定支援ネットワーク(SDM-Japan)は、
障害のあるなしにかかわらず、誰もが、自信と誇りをもって、Expressed Wish(表出された意思、心からの希望)に基づく意思決定と可能性を追求できる社会を目指しています。

私たちの活動

1. 国内外における様々な意思決定支援に関する理論と実務を集積し、
2. 日本の文化や価値観になじむよう再構成することにより「日本版意思決定支援(SDM)モデル」を開発し、
3. 支援者のスキルを効果的に高められるよう研修を行い、
4. 国内での実践の場づくりを通じて日本版SDMのコンセプトとスキルを全国各地に普及させる

私たちは、

- ・実践的ファシリテーション(PSF)事業
- ・トーキングマット(TM)事業
- ・リスクの捉え直し(PRT)事業
- ・選好に基づく意思決定支援に関するプログラム開発(PREF)事業

を基盤としつつ、

豊田市・日本財団との意思決定支援モデルプロジェクト、
かながわ共同会意思決定支援プロジェクト等、
自治体や福祉関係団体との協働プロジェクトを行っています。



また私たちは、継続的な交流や情報交換をしながら私たちの活動にご協力いただけるサポーターを募集しています。サポーターの皆さまには、様々な特典をご用意しています。

※SDM-Japanのサポーター登録はこちら
(READYFORの継続寄付の仕組みを利用して受け付けています)
▶ <https://readyfor.jp/projects/expressedwish>



人が人と共に歩むとき「この人は何をしてほしいんだろう、どうしたら求めに応えられるのだろう」と普通に思うことを考えれば、意思決定支援はとても基本的な取り組みだと言えます。

それは、支援するというよりむしろ「あなたのことを知りたい」と求める姿勢が先に立つものではないでしょうか。

実際にその人の思いを理解するのは容易ではなく、また意思決定支援という言葉が安易に使われている今だからこそ、その基本を皆さんと確認し、日々関わっていくためのスキルを紹介・普及していく。

それが私たちの活動です。

その人の wish をもっと知るために。



日本意思決定支援ネットワーク(SDM-Japan) 代表理事 名川 勝

Wishing for a better future
with the follower activities.

本人の力を信じて、本人と一緒に悩みながら
エンパワーメントし合うことも大切だと思う。

小さなことでいい。

本人がおかしいと思うことに一緒に怒って
「違うよね」って言うだけで
「あ、そうか、主張していいんだ」って思える。
きっとそこから変わっていく。

本当はそんな仕掛けをしなくていい社会が
いちばんなんですけどね。

特定非営利法人 ユートピア若宮 理事長
木本光宣氏



SDM-Japan
Japan Network of Supported Decision Making

一般社団法人
日本意思決定支援ネットワーク

<https://sdm-japan.net/>



この小冊子でご紹介しているポイントをより詳細に解説している
「意思決定フォローシステム運用マニュアル」もあります。意思決
定フォローシステムの実践にお役立てください。



意思決定フォローについて、ホームページでもご紹介しています。

